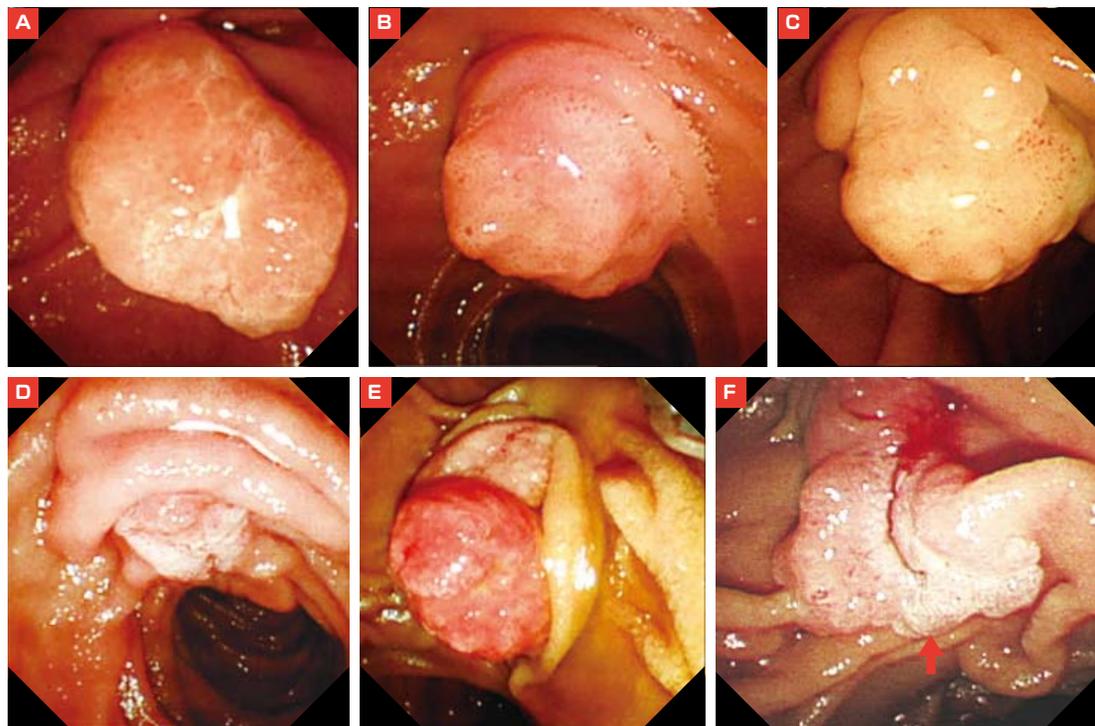


疾患の定義・特徴

- 十二指腸乳頭部に発生した腺腫である。
- 多くは露出腫瘤型であり、乳頭周囲の十二指腸粘膜にも進展する場合もある。
- 腺腫の粘膜は白色調から褪色調を呈する。
- 病理組織学的特徴として表面より深部ほど異型が強いとされる。
- 家族性大腸腺腫症（FAP）において乳頭部腫瘍の合併は高頻度に認められる。

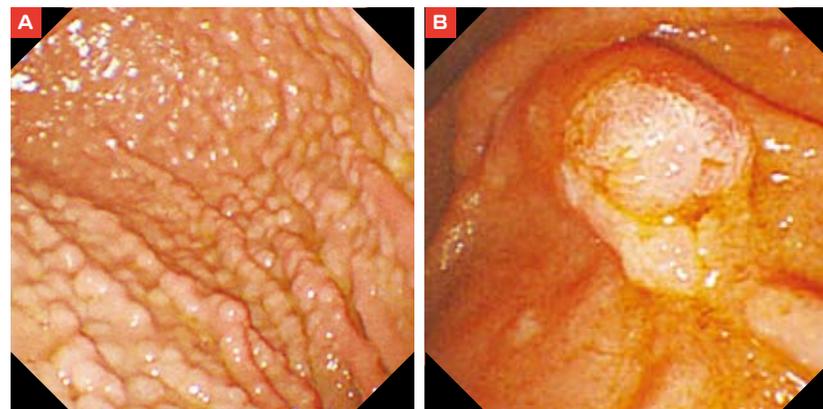
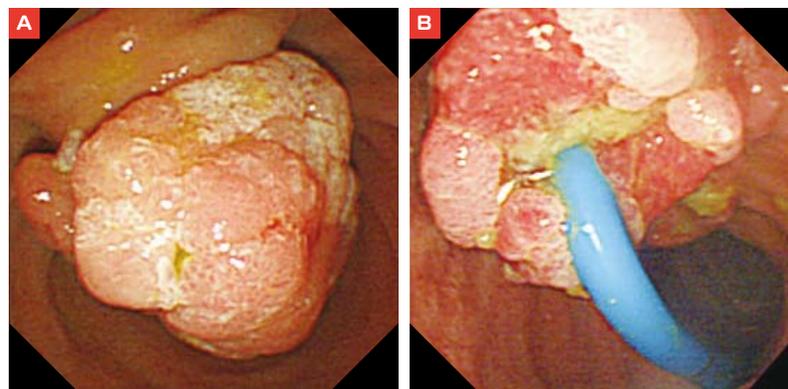
腺腫

A：乳頭は露出腫瘤型で粘膜表面は白色調からやや褪色調で結節状である。B：乳頭は腫大し、一部発赤している。C：粘膜表面は褪色調で粗大結節状である。一部点状の発赤部位がみられる。D：乳頭部の腫大は軽度。粘膜表面はやや白色調である。E：高異型度。乳頭部は腫大し、粘膜表面はやや発赤している。F：乳頭から肛門側に表層進展を認める（→）。



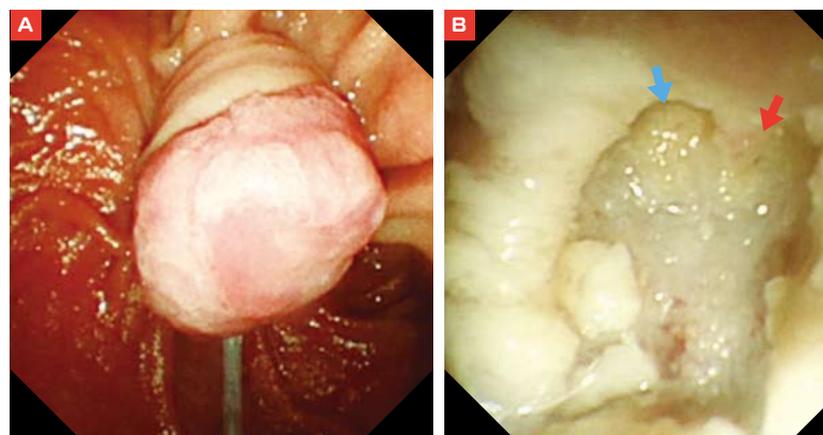
乳頭部癌

A：表面は白色調で、表面からの生検では腺腫であった。B：白色調の腺腫成分を有する状態から進行に伴い癌部が露出。閉塞性黄疸を認め、プラスチック留置された。



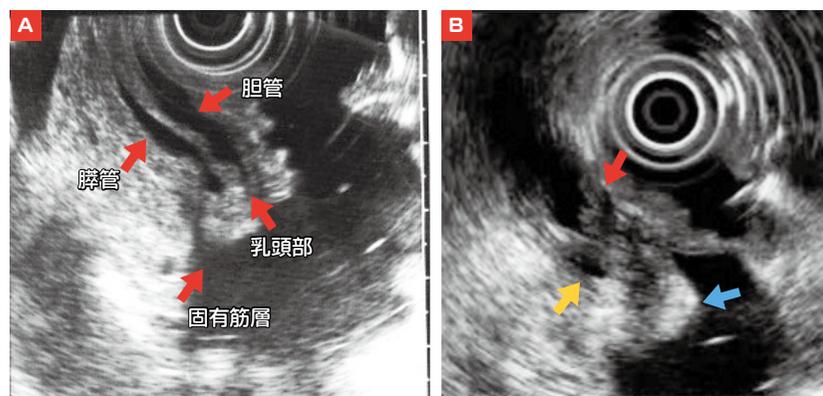
FAP 患者の胃ポリポーシスと同患者の乳頭部

乳頭部からの生検にて腺腫であった。



内視鏡的乳頭切除術 (EP)

A：スネアリングされた腺腫。組織学的には腺腫（高異型度）であった。B：EP 後 切除面。胆管口（→）、膵管口（→）が確認される。



EUS

A：乳頭部の EUS 像。胆管、膵管進展なし。B：胆管膵管進展のある乳頭部腫瘍 EUS 像。乳頭部（→）、胆管進展（→）、膵管進展（→）。

診断のポイント

- 一見正常に見える腺腫もあり、腫大や上皮性変化をよく見る。
- 表面からの生検が腺腫であっても、深部に癌のある腺腫内癌の可能性を考える。
- 生検は表面の Ad 領域だけでなく深部の Ac 領域からも生検する。
- 乳頭部腫瘍は胆管、膵管進展がないか超音波内視鏡を行う。
- 生検にて診断が難しい場合、完全生検としての内視鏡的乳頭切除術も考慮される。

(辻 修二郎)

C 乳頭部疾患